

資料1

東日本大震災からの復興について

～「新しい東北」の創造について～

平成25年5月20日
根本臨時議員提出資料



新しい東北の創造について

復興推進委員会では、『新しい東北の創造』について、審議中。
新しい東北の創造とは、「最低限の生活再建」にとどまることなく、**創造と可能性の地としての「新しい東北」をつくりあげる**というもの。



目的

- 今の日本が抱える人口減少、高齢化、産業の空洞化などの課題の克服、世界のモデルとなる持続可能なエネルギー社会、地域資源と経済活動の好循環など、創造と可能性ある未来社会の創造を目指す。
- 21世紀前半を展望し、東北全体の経済社会のあり方を視野に入れつつ、被災地の復興を進める中で、『新しい東北』を創造するための具体的な政策を検討。

検討の方向(5つの柱)

地域の将来像について、以下の**5つの柱を中心**に、検討を実施。

①元気で健やかな
子供の成長を
見守る
安心な社会

②「高齢者標準^(※)」
による
活力ある超高齢社会

※高齢者の身体・認知機能を社会の標準とすること。

③持続可能な
エネルギー社会
(**分散型自律エネルギー社会**)

④頑健で高い回復力
を持った
社会基盤(システム)の導入で
先進する社会

⑤高い発信力を持った
地域資源(農林水産資源、観光資源、文化、技術・技能等)を
活用する社会

検討の進め方

懇談会(5つの柱ごとに)

復興大臣も参加し、各分野の有識者や先進的な取り組みを行う方々との意見交換を実施。「**解は現場にある**」との認識から、**地域で生まれている新たな活動の芽も調査・集約**。

報告



復興推進委員会

懇談会の成果について、総合的、専門的見地から審議を行い、**政策として深化**。

1. 6月上旬を目途に、中間報告を取りまとめ。

「経済財政諮問会議」、「産業競争力会議」等と連携して、中間報告に掲げた施策について、「骨太の方針」等へ反映。

2. 緊急に対応すべき事項等については、「東日本大震災復興推進調整費」等を活用し、具体化を検討。

関係省庁の縦割りで、被災地のニーズに対応できていない事例など、諸制度の隙間を埋め、モデルとなる具体的な取組みを進める。



『百の言葉より、一つの実行』

3. 被災地において、規制改革会議や総合科学技術会議等と連携し、社会実験や研究開発プロジェクト等の取組を迅速に進め、全国に先駆けて新しい経済社会のモデルを創造し、発信していく。